

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709566		
法人名	有限会社 はる風		
事業所名	大森ケア・コミュニティー はる風		
所在地	秋田県横手市大森町菅生田245番地226号		
自己評価作成日	平成24年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成24年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然にめぐまれており、その環境を活かしながら、一人ひとりが穏やかに安心して生活ができるようにと取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院や福祉施設等が整った南部シルバーエリアの一角に位置し、利用者は自然に恵まれた環境の中で地域との交流を大切に、その人らしい過ごし方ができるよう支援されています。項目別に記載できる様式を使用して、健康状態や日頃の生活状況を、毎月家族にわかりやすく報告される等の工夫をし、家族との繋がりも大切にされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りやミーティング等を通して、理念の実践に向けて取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を構築され、日々のケアに活かして実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事などに参加させていただいたりして交流の機会を持ち、地域とのつながりを意識している。	開設当初から声をかけていただき、エリアや病院のお祭りに出かけて交流されており、定期的なボランティアの来訪、除雪や草刈りを地域の方々に依頼される等地域との繋がりを大切にされた取り組みが行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の人に伝え、地域貢献しているとはいえない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議の中で、状況報告や、意見等を交換しながら、サービス向上にいかせるように努めている。	地域の代表や家族も出席されて、会議は定期的に開催されています。行政からの話やホームでの取り組み状況について意見交換され、運営に反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情、また制度等での相談、助言をいただいたりしている。	介護相談員の定期訪問、入退居や問題解決に向けての相談に対応していただく等、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等への参加や、ミーティング等での勉強会などで正しく理解できるようにしている。研修や勉強会を通し、身体拘束をしないケアに努めている。	勉強会等を通じて拘束による弊害を理解して取り組まれています。状況によっては行政とも相談し、リスクについて家族に説明し、理解が得られるように努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修等への参加や、職員間での情報交換、ミーティングなどの機会に勉強会などを行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点など尋ねながら、対応し理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が訪問した際など、気軽に話しをできるような環境作りに努めている。意見等については職員間に伝わるようにしている。	面会時には意見等を出していただけるように配慮し、情報を共有しながらサービスの向上に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等など意見や提案を聞く機会を設け改善などに努めている。	毎月の会議は職員が全員出席できるように、各ユニットでローテーションを考慮して実施されている他、申し送りでの意見交換が実践に繋がられ、サービス提供に活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスなどを作成し、給与等の明確化をおこない、勤務状況などを把握しながら、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修会に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会や職場交流などを通じて交流の機会をつくり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の時など、本人自身との会話を持ち、会話の中や本人の気持ちを受け止めながら、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、訪問時など時間をかけて話を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に物事をおこなったり、会話をしたり、常に寄り添うような気持ちで、支えあえる関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や面会、手紙などで本人の状況を伝えたり、連絡を密に取り合い、家族ともコミュニケーションをはかりながら、本人を支えていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にも協力していただきながら、馴染みの人や、場所に出かけたり、また、来訪していただいたりしている。だが、全ての利用者に支援できてはいない。	自由に周辺の散歩を日課としている利用者もいて、エリア内やホームの行事で地域と関わりながら継続できるように支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中での共同作業、会話の機会などかわりあいを持ちながら、一人ひとりが支えあえるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要性のあるケースについては、継続的なかわりを持ち、相談や支援に努めるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から話を聞いたりしながら、希望、意向の把握に努め、本人の思いにそのような支援ができるように努めている。	日常会話や家族からの情報で本人本位の生活ができるように支援されており、連絡ノートで情報の共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報をもとに、暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察したり、職員間での情報を共有し、一人ひとりの状況が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族などと話し合い、意見を聞き、職員間とも意見等だしあいながら、介護計画を作成するように努めている。	家族の面会時や利用者との日々の話し合い、連絡ノートを基にモニタリングを行い、意見を出し合って介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りやミーティング等、職員間の連絡ノートなどを利用しながら、情報の共有をはかり、実践や計画の立て直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域資源を活かし、安全で豊かな暮らしができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を大切にしながら、適切な医療が受けられるように支援している。	利用者、家族の希望する医療機関で受診されている他、協力医の往診もあり、エリア内の病院や看護師とも連携して適切な医療支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院や協力医院の看護師の方などに相談しながら、支援できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーとの連絡を密にしながら支援できるように努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実際にかかわったケースはないが、家族やかかりつけ医と話しあいながら、方針共有するようにしている。	医療面での対応等、その都度家族を含め関係者と協議して支援されており、職員は共通の認識で取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成はおこなっている。訓練については定期的におこなえるよう努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などを通し、職員が避難誘導できる方法を身につけ、また、地域の町内会長、民生委員などの方々にも話し合いの機会に働きかけおこなっている。	避難経路をその都度設定する等の工夫をし、夜間想定も含めて年2回訓練が実施されています。消防団や民生委員の他、職員の家族にも協力依頼されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対して、言葉かけや対応等に気をつけながら支援するように努めている。	利用者の人格を尊重し、穏やかに接するよう気をつけています。耳が遠い人にも誇りを傷つけないよう一人ひとりに合った対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いなどを表せるような言葉かけの工夫や自己決定ができる支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら、希望に添った支援ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	洋服や髪型など家族にも協力いただきながら、本人の希望にそえるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、準備や片付けなどおこなっている。	山菜やホームで収穫した野菜が食材となって、利用者ができることを手伝い、職員と一緒に食事をされています。駐車場を利用した花見会や芋煮会を企画し、地域に案内して、家族とも一緒に楽しめるような工夫もされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや水分の摂取状況を確認しながら、一人ひとりの状態に応じた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔の状態などに応じて言葉をかけ、本人の力に応じた口腔ケアの支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを活用し、排泄パターンをつかみ、言葉かけ、誘導をおこないながら、支援に努めている。	排泄パターンを把握して適切な誘導を行い、失禁が減って布パンツに移行できた利用者もあり、自立に向けた取り組みが行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェック表などを活用し、飲食物の工夫、運動への働きかけをおこないながら、予防にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望やタイミングなどは、一人ひとりすべてにあわせた入浴支援はできていない。	1日おきに入浴できるように支援されています。本人の希望や状況に合わせて時間や日にちを変える等の工夫をしながら対応されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムや状況に応じて休息できるような支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容について確認し、医療関係者の方にも話をききながら、理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割、ドライブ、散歩など気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	本人の希望により、家族の協力も得ながら、出かけられるように努めている。日常的にも健康状態をみながら、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	山菜採りや栗拾い、エリア内の散歩等周辺の環境を活かし、利用者の希望に沿って外出できるよう支援されています。また、あやめ祭りやショッピングセンターに車で出かけることもあり、気分転換が図られています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの持てる力に応じて、支援するように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけたり、電話で会話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の調節や季節を感じられるような飾りつけなどを工夫し、居心地よく過ごせるように努めている。	広い廊下は車椅子の利用者には通行しやすく、小上がりの和室もあり、ホールの天窓から陽を取り込むことができる造りで、利用者が居心地良く過ごせる共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホールにソファを置いたり、廊下にイスを置いたりしながら、ひとりでも利用者同士でも過ごせるような工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備えつけの家具もあるが、本人、家族とも相談し、使い慣れた物や家族の写真などを飾ったりしながら、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者が生活しやすいようにベッド、タンス、ロッカータンスが備え付けられています。家族の写真や贈り物を置いて、個々の生活の場としています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かせるように、建物内部の表示をしたり、居室や共有場所の整理整頓をしながら、安全な環境作りに努めている。		